

「子どものための環境づくり」に向けて

# こども環境学会へご参加下さい

## 《こどもが健全に育つ環境づくりに向けて》



### いま、こども達の育ちが危うくなっています —いじめ 不登校 少年犯罪 心身の活性の低下—

ものに埋もれ、食べるに不自由しない暮らしの一方で、不登校、非行、犯罪、生活習慣病など、こどもに関わるさまざまな社会現象が目立ってきています。こども達の心と体の両面において、「活性」が低下していることが心配されます。

またこどもに事故や犯罪などの危険が迫り、いじめや児童虐待など人間関係においても、さまざまな問題が顕著になってきています。家庭や教育現場や街などさまざまな場において、こども達に係わる問題が多発しています。



### こども達を取り巻く環境が悪化しています —都市化の進展の中での「子どもの視点」の欠如—

なぜ、このような事態が生じたのでしょうか。

わが国の1950年代以降は、経済的な繁栄を目指して、都市化と自然破壊が進み、機能や効率が優先される中で、家族や社会のありようが大きく変化してきました。こうした中に「子どもの視点」が欠如していたのではないかでしょうか。

こども達を取り巻く環境が大きく変化してゆく中で、環境の変化がこども達にどのような影響を与えるかが十分に把握されておらず、対症療法的な対策でしか対処できていないのが、現状ではないでしょうか。こども達を取り巻く環境と心身の成育との関係についての科学や学問は確立されていないのです。

こども達が元気に成育できる社会環境を構築するためのロードマップが必要です。



### 子どもの成育に寄与する環境づくり —実践者と研究者が連携する学際的な総合科学—

こども達は、自分たちが育つ環境を選ぶことができません。

未来を担うこども達が心身ともに健全に育つことができる環境が、未来を創るといえます。学問の領域を超えて、研究者や実践者が集い、共に研究し、提言し、実践してゆくなかで、子どもの成育に寄与する環境科学を確立し、子どものためのよりよい環境を実現することが、『こども環境学会』の目的です。

こども達のために豊かな成育環境を実現することに关心を持っておられるすべての方々の参加をお待ちしております。

こども環境学会 代表理事 仙田 満（東京工業大学名誉教授）

## 主な設立発起人

網野 武博	上智大学・教授
飯島 純夫	山梨大学医学部・教授
五十嵐由利子	新潟大学・教授
石井 昭夫	九州大学大学院・教授
石川 史郎	元竹中工務店・副社長
石崎 優子	関西医科大学・小児科講師
大沢 力	東京家政大学・教授
岡崎 甚幸	京都大学・名誉教授
岡島 成行	大妻女子大学・教授
岡部 正昭	神奈川県立厚木病院・院長
大日向雅美	東京大学大学院・教官
大村 康一	宮城大学・副学長
加藤 忠明	成育医療センター研究所・研究部長
神谷 宏明	聖徳大学・助教授
岸 裕司	秋津コミュニティー・顧問
木村 歩美	篠原学園専門学校

木下 勇	千葉大学・助教授
熊谷 洋一	東京大学大学院・教授
桑原 淳司	日本大学芸術学部・教授
小池 富夫	プロジェクト・ブレーン主宰
小澤紀美子	東京学芸大学・教授
近藤 洋子	玉川大学文学部・教授
斎藤 喜能	横浜国立大学・名誉教授
才村 純	日本子ども家庭総合研究所
櫻場 宏一	共創未来ネットワーク主宰
塙川 寿平	横横学園女子短期大学・教授
塙野 育	鳥取大学・助教授
汐見 稔幸	東京大学大学院・教授
重村 力	神戸大学・教授
清水 将之	関西国際大学・教授
庄司 順一	青山学院大学・教授
陣内 雄司	宇都宮大学・助教授
住田 正樹	九州大学大学院・教授

仙田 満	東京工業大学大学院・教授
高橋 麗志	東京大学・名誉教授
高山 英男	子ども調査研究所・所長
竹下 雅和	九州大学工学部・教授
建部 謙治	愛知工業大学・教授
多田 善昭	多田善昭建築設計事務所
田中 栄治	地域交流センター・代表理事
辻 吉隆	国立病院機構・施設整備室長
寺本 潔	愛知教育大学・教授
東間 翁子	園庭遊具研究家
中津 秀之	東洋大学・助教授
中山 豊	環境デザイン研究所
中村 攻	千葉大学・教授
中村 勉	ものづくり大学・教授
布田 健	建築研究所
野口 孝博	北海道大学大学院・教授
服部 明世	大阪芸術大学・教授

日暮 真	東京家政大学・教授
平川 國一	環境設計工房・代表
平山 宗宏	日本こども家庭総合研究所・所長
福岡 孝純	東京農業大学・教授
福島 駿介	琉球大学・教授
藤枝 傑之	国土技術政策総合研究所
藤原 宣夫	ふじえだワミリーキック・院長
前田 恵嗣	地域計画建築研究所
松永 静子	臨床育児保健研究会
松本 直司	名古屋工業大学・教授
宮本 文人	東京工業大学・教授
三輪 泰司	京都造形芸術大学・教授
村上 美奈子	計画工房主宰
村山 祐一	鳥取大学・教授
自黒 実	篠山学院・准教授
矢田 努	愛知産業大学・教授
横尾 義貴	京都大学・名誉教授

(約200名中の主要な方のみ、敬称略、50音順)

2004年5月

## 《こども環境学会がめざすもの》

### 1. 「子どもの環境」に関わる総合的な学術研究体制の確立

都市、建築、社会工学、教育、保育、発達心理、社会、保健、体育、医療、福祉などこどもに関わるすべての学問分野の連携をめざします。

### 2. 「子どもの環境」に関わるすべての人の参画

学術的な研究者のみならず、家庭、保育、教育、地域、行政などこどもに接する現場にいる方々の幅広い参画をめざします。

### 3. 「子どもの環境」についての啓発

こどもを取り巻く環境が子どもの成育に与える影響について学術的な観点から解明し、こどもにとっての環境の重要性について幅広く啓発することをめざします。

### 4. 「子どもの環境」の総合的な施策の推進

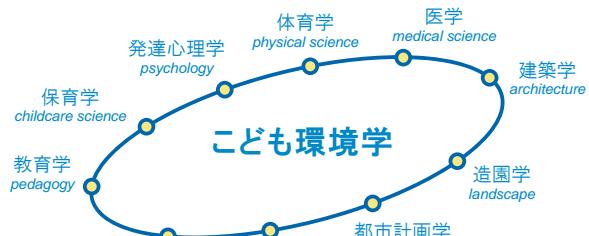
教育、福祉、医療、都市、交通、警察など縦割りに分断された行政機構を超えて、こどもための環境づくりをめざす総合的な施策の提案と推進を図ります。

### 5. 「子どもの環境」国際ネットワークの構築

子どものための環境づくりにおいて優れた諸外国やこれから都市化の進展が予想される国々などとの連携を図り、こどもの環境づくりの国際的なネットワークの構築をめざします。

## 《こども環境学会の活動》

1. 年次大会と各種研究集会の開催
2. 学会誌・論文集および会報の発行
3. インターネット上で情報提供
4. シンポジウム、講演会、講習会等の開催
5. 学術データベースの作成と公開
6. こどもの環境づくりへの実践と支援
7. 国内、国外の関連団体との連携
8. 国や自治体などに対する施策の提言や助言
9. こどもの環境の向上に資する業績についての顕彰



●